

ご自由にお持ち帰りください

感じる旅、考える旅。

# トランヴェール

T r a i n V e r t

7

2012  
July

〔特集〕

## ぐんま 昆虫をめぐる冒険

〔EKIBENギャラリー〕

「こんにゃcute弁当」

〔エッセイ〕

角田光代

『目的地まで、あとどのくらい』



東北でんぱが博覧会場だ。

東北  
観光博



「こころ、  
むすぶ。」



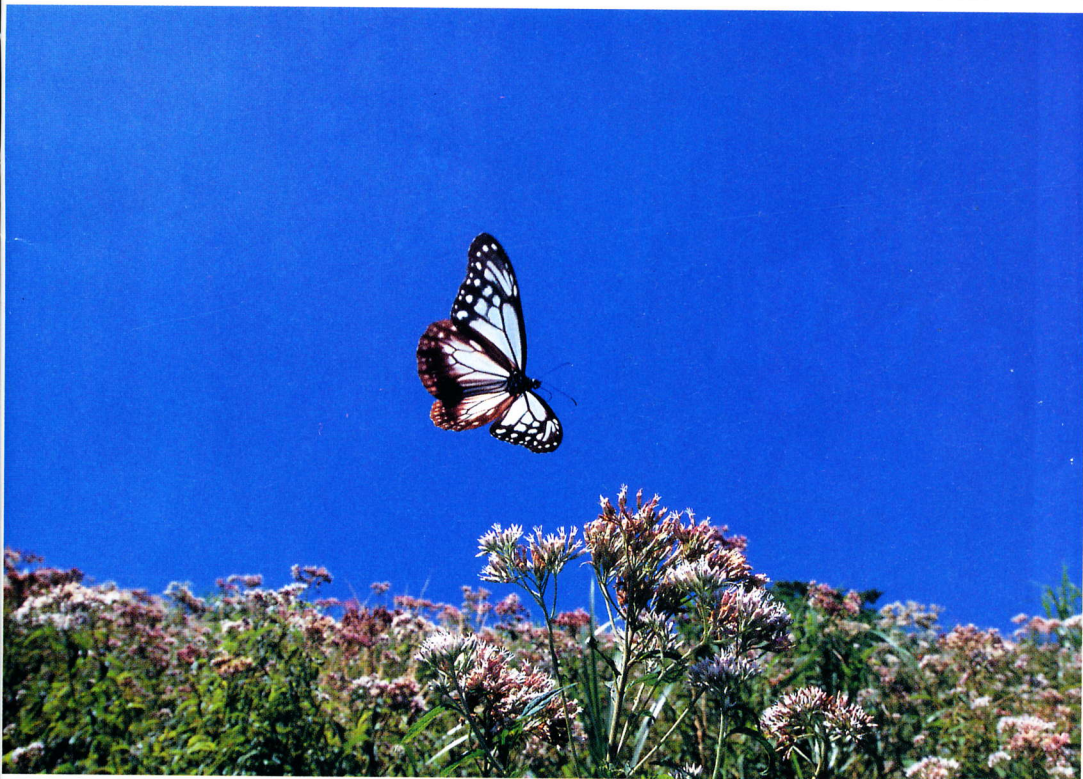
つなげよう  
日本。

旅するチョウ・アサギマダラと浅間山



アサギマダラの雄(標本はぐんま昆虫の森蔵)

右/アサギマダラが集まる棧敷山の中腹。登山口より徒歩約10分(写真/赤木道敏)  
左/棧敷山の麓から車で10分程の場所にある「たまだれの滝」(写真提供/吾妻観光連盟)



ふわりふわりと風に乗れ、海を越えて旅をするアサギマダラ。青空の下に広がる群生はヨツバヒヨドリ(写真/佐藤英治)

# 山へ、川へ、森へ！ 虫たちの楽園を旅する

●みなかみ町  
●嬭恋村 ●赤城町

涼やかな高原へ、  
爽やかな水辺で。  
そこでは驚くべき虫の暮らしが  
繰り広げられていた。

ふわりふわりとアサギマダラが集う  
棧敷山はチョウの観察スポット

渡り鳥のように海を越えて「旅するチョウ」がいるのをご存じだろうか。その名はアサギマダラ。春から初夏にかけて南西諸島から北上し、本州の山地などで夏を過ごし、世代交代した後、秋には新しい成虫が北から南へと旅をする。

長野との県境に近い嬭恋村の棧敷山。その中腹に広がるヨツバヒヨドリの群生地は、夏にたくさんのアサギマダラが訪れる、チョウの名所である。

花の蜜を吸うアサギマダラをよく見ると、後翅に黒い斑紋(性標)のあるチョウが見つかる。これが雄。性標がない方が雌だ。いろいろな花にやってくる雌に対して、雄はヨツバヒヨドリやフジバカマなど、特定の花を好んで訪れる習性がある。なぜ雄は花を選び好むのだろうか。

実は、アサギマダラの雄が求愛行動を取る際の腹部の先端のヘアペンシル(発香器官)と性標から分泌する性フェロモンと関係がある。雄が好む特定の花には、実は共通の有毒成分(ピロリジジンアルカロイド)が含まれていて、雄は吸蜜などを通してこの成分を摂取し、性フェロモンを作る原料



- ◎「抜群のアクセス環境」東京から約90分
- ◎「魅力ある価格」㎡あたり9,800円から
- ◎「高度な技術力」歴史ある工作機械産業
- ◎「優れた人材の宝庫」3大学1高専が集積
- ◎「積極的な支援体制」用地取得費25%補助

## 自然に恵まれた快適ビジネス環境 長岡オフィス・アルカディア

### 所有権分譲

●9,800円/㎡~12,500円/㎡

(各種優遇制度)

- 長岡市土地企業立地促進補助金(用地取得費の25%)
- 最長8年間 電気料金の約50%を給付
- 固定資産税課税免除(3年) など

### 事業用定期借地

- 賃料：358円/㎡・年より(保証金は実質賃料の18ヶ月分)
- (2年間フリーレントキャンペーン)実施中(対象画地限定)

※詳細は、お気軽にご相談ください。

### 各主要都市との交通アクセス



独立行政法人  
都市再生機構長岡都市開発事務所  
Tel.0258-47-1500 Fax.0258-47-1504  
詳しくはWEBで 長岡オフィス・アルカディア 検索  
<http://www.ur-net.go.jp/nagaoka/>



## 群馬県からの移動記録

毎年、群馬県の各地でマーキング調査が行われ、再捕獲、再々捕獲などが記録されている(●印)。  
※MAPは「ぐんま昆虫の森」調べ

### マーキング調査

翅にマーキングされたアサギマダラ。翅に油性のペンでマーク(捕獲地・捕獲者名・個体番号の略)が書き込まれている。  
(写真/佐藤英治)



さなぎ  
蛹

金色斑紋のあるだるま形の蛹は、天敵にその存在を誇示しているかのようだ。  
(幼虫と蛹の写真/安田守)



### 幼虫と食草

イケマ(写真下)やキジヨランなど有毒成分を含む植物を何の問題もなく食べ、さらにその有毒成分で自分の身を守ることが知られている(写真/林将之)

台湾やマレーシアなどに生息するカバシタアゲハというチョウは、アサギマダラにそっくりの姿をしている。姿を似せることで天敵から身を守っているのかもしれない。  
(カバシタアゲハ写真/佐藤英治)

にしている。さらに、この毒が体内にあるおかげで、成虫は鳥やクモなどの天敵から襲われにくくなる。つまり吸蜜植物に含まれる有毒成分は、アサギマダラの繁殖行動に不可欠な成分であると同時に、防御物質としての役割をも果たしているというわけだ。

このチョウがなぜ長距離移動をするのか、また、どの地を中継しながら、どこまで旅をするのかについては謎が多い。そこで渡りのルートを解明する目的で、毎年、日本各地でマーキング調査が実施されている。マーキングとは、移動中のアサギマダラを捕獲して翅に必要な情報を書き、その個体を再び放つこと。夏から秋にかけて本州などで捕獲されたものが、晩秋や冬に鹿児島や沖縄で確認されることもある。

飛び方もほかのチョウとはひと味違い、紙飛行機のごとく気流に乗って、ふわりふわりと優雅に空を舞うアサギマダラ。この夏はさわやかな孀恋村の高原を訪ね、謎多き「旅するチョウ」と束の間の出会いを楽しんでみてはいかがだろうか。

イラスト/なかむらみ ※16~21Pのイラストはイメージです。

※浅敷山は国立公園ですので、動植物の採集はご遠慮ください。浅敷山までのアクセスについては、孀恋村役場観光商工課 ☎0279-96-1515までお問い合わせください。取材協力/赤木道紘(浅岡・吾妻エコツーリズム協会)